

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 史 亜 洲

本研究は、胆嚢癌における Rb 蛋白および p16^{INK4} 蛋白の発現を免疫組織化学法により解析し、その発現異常と臨床病理因子及び予後との関連性の検討を行い、以下の結果を得ている。

1. 胆嚢癌において、Rb 蛋白過剰発現は Rb 蛋白欠失と同程度に、腫瘍の進展に関与している。また、Rb 蛋白過剰発現は胆嚢癌の予後因子として有用である。
2. 胆嚢癌において、Rb 蛋白過剰発現は p16^{INK4} 蛋白の欠失と関連がある。

以上、本論文は胆嚢癌における Rb 蛋白および p16^{INK4} 蛋白の発現異常と臨床病理因子及び予後との関連性を解明した。また、Rb 蛋白過剰発現は p16^{INK4} 蛋白の欠失と関連があることを示した。これらの知見は胆嚢癌の新しい biotherapy の開発と臨床治療の strategy に重要な貢献があると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。